

8月定例山行（第3回サロンやまぼうし） キャンプと奥三段峡沢登り 北広島町

8月7日・8日（火・水） ☆天候：晴れ

参加者17名 CL若木一之

吉川(明) 原田 幾久 坂井 宮木(澄) 小林 若木(小) 熊谷(陽)
藤本 利田 熊谷(修) 宮木(一) 松尾 波平 永谷 滝

報告：暑さを忘れて水と戯れる

7日（火）13時安佐南区イオンモールに集合して今夜の食材を購入した。5台の車に分乗して聖瑚キャンプ場に15時30分到着。

早速手分けしてキャンプの準備にとりかかった。ところが手際が良すぎてどんどん準備がすすみ、まだ太陽が明るい5時にはもう焼き肉用の炭火も真っ赤になっていた。

まずビールで乾杯。5kgも買った肉は網の上でおいしそうな匂いと音を立てている。みんな満腹した後は例によってラーメンで締めた。中島(康)さんも駆けつけてきていっそう賑やかになった。

歌を歌って、花火をして、星空を眺めて夜は更けてゆく。

8日（水）5時起床。昨夜の騒ぎもなんのそのみんな元気いっぱい。朝食は簡単に済ませて、テントを撤収、7時30分沢の入口へ出発した。

8時30分、沢靴に履き替えて出発。（熊谷さん夫妻と永谷さん松尾さんは体調の関係で沢登りはやめて近くの山を散策することになった）

水は思ったほど冷たくはなく「これも温暖化の影響かねー」などのんきなことを言いながらみんなじゃぶじゃぶ元気に水の中を歩いた。11時予定していた畳岩に到着。少し早いので荷物を置いてもう少し上流まで歩いた。

昼食は幾久さん差し入れのソーメンを女性陣手作りのたくさんの具と一緒に腹いっぱい食べた。（幾久さんは畳岩手前の滝に登りずらくてそこでリタイア、波平さんがサポートすることになりみんなと一緒に昼食を食べることができず残念なことだった）

下界は34度の暑さだというのに、ここは日陰にいると寒いくらいで何とも気持ちがいい。しっかり水と戯れ3時に現地で解散した。

例年キャンプと沢登りには7～8人の参加者だが今年は「サロンやまぼうし」とあってか23名の申し込みがあった。残念ながら6名の方が都合でキャンセルとなったが、それにしてもたくさんの参加者でにぎやかな沢登りになったのはよかった。

（記 若木一之）



チョット一休み



清流の中を腰までつかり渡る

“ドキドキ、と”ワクワク、の沢登りデビュー

吉川 明子

どちらかと言えば山より海派であった私が、娘の誘いに応じて山ガール（苦笑）デビューしたのが今年の2月。4ヶ月後の6月頃に「クソ暑い夏は沢登りに限る」のキャッチフレーズが目に入り、早速申し込みをした。それからは遠足が待ち遠しい子どものように、少しずつ準備をして楽しみにしていた。

8月7日 晴れ 13:00

参加者は、各々配車された乗用車で祇園のイオンモールに集合し、食料などを調達。その後、聖湖キャンプ場に移動する。車中から見える青い空にキレイな入道雲。夏だぁ！

夕食はB.B.Qと持ち寄りの品々で、楽しくおしゃべりしながら、ビールや珍しい焼酎など、とてもおいしくいただいた。食後は、松尾さんのギターと永谷さんの歌唱指導のもと、皆で山の歌を大合唱。それから席を移して星空を眺めたが、いろいろ説明して貰ったのに、結局、星空を知らない私が分かったのは、北斗七星だけであった。なんだか20代の頃の青春時代に返ったようで、楽しい時間は瞬く間に過ぎ去った。21:00頃就寝。テント泊。明日はいよいよ待ちに待った沢登り。お天気に恵まれますように・・・

8月8日 晴れ 5:00

起床朝食後、身支度をすませ乗用車に荷物を積み込み、奥三段峡の入り口の田代まで移動する。ここで沢タビに履き替えワクワク感全開で歩き始める。が、難関である蜘蛛淵の滝を高巻いたので、急斜面や狭い山道の連続。途中、ロープを持つ手に自然に力が入りドキドキする。「どこまで続くの?」と、不安で一杯になる。

しばらくして沢に出てホッとしたのも束の間、5m位の岩が前面に立ちはだかる。どうやらこれを登るらしい。またしてもドキドキ。でも、若木さんや宮木さんの声かけと張って貰ったロープを使いどうにか、クリア。

そして、これからが沢登りの本番である。若木さんの「ここからは、どこを通ってもいいよ。」の声に、「行くぞ!」と自ら足首まで浸る。優しい緑に囲まれた穏やかな溪流。溪流の水は透明

で、冷たくて気持ちが良い。癒される～。

進んで行くうちに川幅が広がっていき、川の流れの中に並ぶ飛び石を渡っていくようになる。流れの強いところでは、バランスを崩し、足をすくわれそうになる。坂井さんの「浮石よ。気を付けて。」の声を頼りに、気持ち良く溪流の中を歩く。さらに川は深くなり、淵を通るものの、徐々に膝上、腰、胸の辺りまで浸かるようになる。途中、幾つかの滝を通るが、何か所か巻いている時に、「イワタバコが咲いてるよ。」とか、「ツタウルシがあるから触らないようにネ。」などと若木（さ）さんに教えてもらう。イワタバコの花は沢の岩肌に可憐に咲いていた。なんだか愛おしい。

しばらくして畳岩にたどり着く。ここに荷物を置き、身軽になってさらに奥へと進む。奥三段峡で一番大きい蛇淵の滝に出て、ここで休憩して折り返す。

慣れたようでも川底の石は見えにくく、私はついに足を滑らせドボン。今まで気持ち良かった溪流の水も全身濡れるとさすがに寒かった。昼食は、畳ヶ平の木漏れ日の中、そうめんをいただいた。沢山の薬味を持参してくださり、そうめん自体の美味しさも相まって贅沢な昼食になった。

帰路の山道で、岩の斜面に設置されていたロープが横にずれ、全体重をロープにかけていた私は、一瞬宙吊りになりヒヤッとした。この件で、ロープは補助的に使う物だと知った。そして、山行経験の少ない私は、ドボンしても水の中をジャブジャブ歩く方がよほど気が楽だ～!と思った。

こうして、今回楽しくキャンプができ、また、無事に沢登りを終えて帰ることができたのも皆さんのお陰だと感謝しつつ、私の短い夏休みは終わった。

最後になりましたが、お世話をしてくださった方々、本当にありがとうございました。やまぼうしの皆様、これからもご指導くださいますよう、よろしくお願ひ致します。